

鳥インフルエンザウイルスの不活化を目指して

—完成したパイロットプラントで実験開始—

鳥インフルエンザが発生した際、農場内は逆性石けん製剤等を用いて完全に消毒する必要があります。この時に生じる、場内の汚水中の鳥インフルエンザウイルスをより効率的に不活化するため、水酸化カルシウムのような石灰系化合物を用い、安価で環境にやさしい処理装置の開発を進めています。

今回、そのパイロットプラント（実験装置）が完成し、実用化に向けた実験を開始しました。現在、模擬排水を処理する実験を行い、今年度中の実用機完成を目指しています。



鳥インフルエンザウイルス不活化装置のパイロットプラント（実験装置）